
架空現実

雨宮千歳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

架空現実

【Nコード】

N1845J

【作者名】

兩宮千歳

【あらすじ】

とても短いです。

少年のみる夢のお話です。

夢ってときどき、現実と混乱しませんか？

妊娠した猫の腹部を裂いて、赤ん坊を取り出す夢を見た。猫の腹部からは大量の血が溢れ、色んな臓器がうごめいていた。僕は真っ白な白衣を着ていて、手袋も靴も真っ白く、髪の毛すら白くて、色のない空間と存在に妙な空虚感を抱いていた。

手の中で瀕死状態の小さな赤い猫を、ぴくぴく呼吸する小さな赤い猫を、僕は静かに見つめていた。ママは、赤ちゃんよりも弱っていた。僕の目線の先で、薄く潤む瞳を開けた寂しげなママは、赤ちゃんとを胎内から盗まれた事実を知らずに死んでいくのだろうか。

生き物というものは果てしなく無力であり、人間というものは果てしなく残酷である。

夢の中の僕は手のひらに乗った赤いこの子に言葉を吐いた。ただ、それは現実から見つめる僕には理解出来ない言葉で、だけど、夢の中の僕が、僅かに浮かべた笑みに、現実の僕は、理解する。

彼は、きつと赤ん坊を殺す。

手を伸ばしても届かないそこに、痛く目を瞑る。夢の中の僕は現実の荒波に揉まれゆく僕よりも、現実の気持ちに忠実で、もしかしたら僕よりも彼はリアルなのではないか、と思う。

猫の息を止める現実の僕は夢の僕からの泪には決して従わないだろう。

(後書き)

短すぎるので感想くださいとは言いきらいですが・・・。

初投稿なので、これから宜しく願いします*

なんか何でも言ってお下さい^^;

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1845j/>

架空現実

2010年10月16日03時57分発行